

タイトル

授乳期初期における直接母乳授乳と哺乳びん授乳の併用について 第 4 報

石丸あき、斉藤哲

ビジョン株式会社 中央研究所

【目的】

産後早期の直母授乳と人工乳首授乳の併用について、ミルク穴が S サイズより小さいタイプの人工乳首を用いた場合、直母との併用で困難や不具合等が起きにくいことを報告した。本研究では、併用を、直母直後に連続して人工乳首を使用して補足する「連続補足」と、直母とは別の授乳時刻に、人工乳首のみで授乳する「独立補足」の 2 条件に分け、各条件下で併用率の推移を検討した。

【方法】

P 社モニター制度に登録しており、産後早期において、P 社 SS サイズ人工乳首を保持し、直母と併用できていた 56 名を対象に、生後 2 週齢時と 5 週齢時の授乳記録および使用感に関する質問紙調査を実施した。母親の平均年齢 32.3 歳、児の平均日齢 2 週時 11.9 日（レンジ 6-28 日）、5 週時 38.7 日（レンジ 27-59 日）、児の平均出生体重 3119.4g であった。

【結果】

調査期間中の授乳において、2 週時の連続補足率および独立補足率が 70%以上のケースを、それぞれ連続補足群（14 名）、独立補足群（19 名）とした。5 週時に直母と人工乳首を問題なく併用していたのは連続補足群で 8 名（8/14: 57.1%）、独立補足群で 7 名（7/19: 36.8%）であり、連続補足群で高い併用継続率が確認された。また、5 週時の質問紙調査の中で「母親乳首を嫌がることもある」もしくは「人工乳首を嫌がることもある」に対して、連続補足群では 1 名、独立補足群では 4 名、報告が確認された。

【考察】

連続補足は独立補足に比べて、ゆっくりしたペースで哺乳する傾向にあることが授乳記録から確認されており、連続補足の場合、ミルク穴の小さい SS サイズの人工乳首は、無理なく哺乳できている可能性が示唆された。今後さらに併用しやすさについて詳しく検討していく予定である。